

天地

ネットワーク テーブル 493号

天地シニアネットワーク 2019.5.1

5

| | | | |
|---------------------|--|-------|----|
| TENTĪ TODAY 兪彭年さん来日 | | | 1 |
| 会員の広場 コメント・つぶやき | | | 2 |
| 科学 読み物 | 天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙を測れ(完) 66. 宇宙と地上のエネルギーについて | 伊那 闊歩 | 3 |
| 考察 | 中国人から見た日本人の言語表現心理(1) | 兪 彭 年 | 8 |
| 歴史 | 米国の統治の仕組みと大統領制、と建国の父たち(6) その2: 第2代大統領 ジョン・アダムズ | 佐川 雄一 | 10 |
| 回顧 | 満州を考える(2) | 加藤 幹雄 | 11 |
| 社会評論 | 『誰も見てなくても良いことをする社会』(6) 日本人のきれい好きと神道信仰 | 臺 一郎 | 14 |
| クラシッ ク座談 | 「静聴雨読庵より」 サロン・ド・ミュージック・クラシーク(5) (6)シューベルトの室内楽曲と器楽曲 | 尾関 陽四 | 16 |
| 回顧 | 城下町弘前にて(其の一) | 早川 和雄 | 19 |
| 回顧 | 海外での思い出(1) | 森永 善彦 | 20 |
| 講演会 | 「奈良興福寺文化講座」「新三木会」 | | 21 |
| 事務局 | | | 22 |

TENTĪ TODAY

講演会、中国旅行など何度も天地シニアに登場願った兪彭年さんが上海から来日した。数年前に奥様を亡くされ、一人暮らしのようですが、以前と変わらずお元気でした。訪日中に、10名以上の中国人のお仲間を連れて南信州・阿智村の「満蒙開拓平和記念館」を訪ねるとのこと。最近、日本旅行も、単なる観光地訪問はダメで、歴史的背景があって、さらに温泉や、観光客の行かない里山が周辺にあれば行く、と大変高度化しているそうです。会話の中で、国際情勢が流動的、漢字文化圏にある国は、まとまらないとダメと熱く語っていました。

年初に出版した「了解日本、了解日語」を進呈してくれました。経歴が載っていますが、基本は哲学者。1937年生まれ。1961年复旦大学哲学部哲学科卒業。上海外国語学院(現在の上海外国語大学)の日本語関係部門の教授となる。定年退職後は10年間長崎県立シーボルト大学国際情報部国際交流学科教授を務めていますが、その間に、上海市日本学会会長、上海市外事翻訳協会副会長の要職につき、現在でも上海市人民対外友好協会副会長、上海市日本研究交流会会長のです。

愈さんは、高校で同学年、入学して3か月で退学、母国へ勇んで帰るものの文化大革命に遭遇して大変な苦勞をしています。波乱万丈の人生体験をしている愉さんを、誇りに思う高校仲間が何人もいます。

「了解日本、了解日語」は、中国人向け、前半部の「了解日本」は中国語で364ページ、後半部の「了解日語」は日本語で96ページ。日本語部分は、愈さんが長年研究テーマとしていた「中国人から見た日本人の言語表現心理」を長崎県立シーボルト大学・教授時代にまとめた6編。日本人変にも面白く参考になりますので、天地ネットワークテーブルに今月より掲載しますので、ぜひご覧ください（ご本人了承済み）。

なお、愈さんから本が寄贈されています。中国語部分も、日本の歴史や、社会を中国人が理解するように書いたもので中国語を学ぶ日本人にも参考になるとおもわれます。

ご希望の方には無償で差し上げますので、ご連絡を（送料はご負担ください）

会員の広場（コメント・つぶやき）

「天のわざ・・・」を読んで

貴重な記事をご発送いただきありがとうございました。世界史と計量学の関連を、門外漢でも理解できるように分かりやすく述べられたもので、たいへん興味深いものです。私も授業で新しい単元に入るときには、（対数が天文学の発達と関連があるように）なぜその考えが生まれてきたのかを、自分のわかる範囲で、イラストなど使い噛み砕いて説明しています。この「天のわざ」もじっくり読みこなして、生徒に何らかの形で提示できたらと思います。

（M・Iさん・都立高・数学教師）

「天のわざ地のほまれー地球を測れ、宇宙をはかれ」が、今回・66回をもって終了します。3月には「そうだ京へ行こう・古利の花物語（大竹漢洲さん）」が63回で終了しました。一年に24回掲載されますので、共に、3年近い連載でしたので、寂しくなります。「天のわざ・・・」の伊那闊歩さんは、毎回、新しく書いて送信してくれました。現代人は、最低でもこの程度の数学は理解していないとダメという趣旨で、書いてくれましたが、受験数学しか知らない世代には、かなり難しすぎました。ただ、最近の社会状況は、数学を必須としているようです。伊那闊歩さんの警鐘が、現実となっているようです。数学に弱い日本人・・・日本丸沈没に繋がらないと良いのですが。（津田）

タイミング

数年前、「森友学園問題」など安倍さんが国会で窮地にたつと、北朝鮮が意図不明で突如ミサイルを発射するという、不思議な事件がありました。米中の関税交渉が危機的な状況を迎えた5月、北朝鮮がミサイルを突然発射しました。意図不明のようですが、タイミングがあまりにもよく似ているので勘繰りたくなります。（T・T）

川村美術館・

大連休が終わり、少し出かける気になって千葉県佐倉市にあるDIC河村美

術館に行きました。大日本インキ化学工業（D I C）の創業者だった川村家の所有と聞いていましたが、現在はD I C（株）の所有になっている。総合研究所に隣接、緑豊かな広々とした美術館の庭は手入れが行きとどき相変わらず素晴らしい。常設展には以前と変わらずに幅広い作品が展示されている。J R 佐倉駅から無料送迎バスで15分ほど、京都から日帰りできたという老女に驚かされました。

会員の作品

天のわざ、地のほまれ

—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

「天のわざ、地のほまれ」No.66 添付いたしますのでよろしく願いいたします。これで完結とさせていただきます。

物理の雑誌にでも投稿すればよいものでしたが、迷惑なものを忍耐つよく掲載していただきありがたく感謝申し上げます。とはいえ、筆者にとっては、話題となっていることが身のまわりで起こっていることなので、少し数式が入りましたが、報告する価値はあると信じておりました。長い間ありがとうございました。伊那 闊歩

66. 宇宙と地上のエネルギーについて

現代の宇宙論によれば、われわれの住むこの宇宙はビッグバンによって138億年前に「無から」創成されたという(*1)。こうして、宇宙に存在する物質はもとより、時間と空間そのものも(天のわざによって)創造されたのだ。空間、時間、物質をひっくるめた有りとあらゆるものが宇宙というわけだ。

宇宙は現在もなお膨張をつづけている、それも途方もないスピードで！なぜビッグバンが、この途轍もなく長い時間にたった1回だけしか起こらなかったのかという疑問に対する明確な答えはないが、じつは今も宇宙は数限りなくこの宇宙とは関係なくどこかで生まれていて、われわれ人類はその一つの中でたまたま生まれ、そこに住んでいるのだという説(マルチヴァース説、*2)が唱えられるようになった。今ビッグバンが再び起こるとすれば、それはこの宇宙の内部で起こるのではなく、われわれの知ることができないどこか(他所)で起こるのだという。今後宇宙がどのような最期を迎えるのかだれも答えることができない。様々な憶測があり、中には怪しげなあて推量がなされているものもある(*3)。

宇宙の形は、ゴム風船に譬えられる。ゴム風船の中に空気などの気体を吹き込むと風船は球状に膨らむ。この時、この球の半径が時間を表す(*4)。時間の経過は球の半径の増加によって測られる。球の表面は2次元の曲面であるが、これを(2次元)宇宙空間と考える。この宇宙空間には中心はなく、どこでも一様に広がり続けている。ここに住む2次元人間には、3次元世界を

感知することは出来ず、空間が2次元的にどこまでも広がっているように見える。しかし、3次元世界に住む人間から見れば明らかにこの2次元宇宙は有限である。そこでゴム風船の表面が2次元面ではなく、3次元でそこに我々人類が住んでいると考えてみる。

3次元世界に住むわれわれから見れば空間は無限に広がっている。この3次元空間を宇宙と認識するかぎり、その広がりは無限である。そのような意味では宇宙空間は無限である。しかし、4次元世界に住む人間（存在するとして）から眺めれば、それが有限のサイズに収まっているということがあり得るのだ。絶対時間のもと3次元空間の中で生きており、感じており、その様な感覚に慣れきっているわれわれには、時間と空間が渾然一体となった4次元世界を想像することは難しいとつくづく思う。

1933年、スイス人宇宙物理学者フリッツ・ツヴィッキー(1898-1974、米国で活躍)は、巨大銀河団(銀河の大集団)は目に見える天体の集合としては、力学的に不安定であることを見出した。銀河団は存在する、しかし、その形を長く保っておくことが出来ないはずなのだ(*5)。銀河団が力学的に安定するためには、目には見えない別の重力源が銀河団中に、あるいは銀河団を覆って存在しなければならないというのだ。さらに渦巻き銀河にも、それをかたち造る恒星やガスとは別に銀河の中に、あるいは銀河を取り巻いて強い重力源がなければ、渦巻きはまとまりを失いバラバラになってしまうという。

ツヴィッキーはこの正体不明の目にはみえない重力源をダーク・マターと名づけた。その後、多方面からの研究の結果、ダーク・マターは実在することが明らかになってきた。しかもその量たるや、恒星や塵、ガスなど宇宙に存在するすべてのものをひっくるめた物(物質)の量の5倍もあるという。

1924年、カリフォルニア-パサデナにあるウイルソン山天文台で遠方の銀河の観測を続けていた(アマチュア?)天文学者エドウィン・ハッブル(1889-1953)は、奇妙なことに気がついた。当時ウイルソン山天文台には口径100インチ(2.5m)の世界一巨大な反射望遠鏡があり、次々に新発見がなされていた。ハッブルの観測によれば、銀河が遠くになればあるほど、銀河はさらにスピードをあげて遠ざかって行くのである。その後退速度 v は地球からの距離 r に比例する、つまり、数式を使えば、 $v = H r$ と書けることを発見したのだ。これをハッブルの法則といい、定数 H はハッブル定数とよばれることになった(*6)。現在、宇宙膨張は宇宙の基本的性質の一つとして受け入れられている。

ところが最近たいへんショッキングな発見があった。それは、この宇宙の膨張がさらに加速しているというのだ。その膨張スピードもハンパなものではなく、このまま膨張が進めば無数にある銀河間の距離が広がって、究極的には物質の密度(つまりエネルギー密度)が希薄になり、消滅していくというのである。とはいえ、われわれは宇宙の膨張速度にかんして当面心配するようなことはなにもない。時間のスケールにして、百億年から数千億年も先のはなしである(*7)。

しかしながら、宇宙膨張の加速の原因についてはなにもわかっていない。ただ、途方もなく膨大な宇宙エネルギーが関与していることには誰も異論は

ない。宇宙にはなにかわけがわからないダーク・エネルギーがあまねく存在するのである。しかも最近のデータによれば、宇宙のエネルギーは、星や塵やガスなどをすべて集めたエネルギー約5%、ダーク・マターのエネルギー27%、ダーク・エネルギー68%、と見積もられている。

これでは、われわれは宇宙のことについてまだなにもわかっていないではないか。このような未解決の大きな問題を抱えつつも、われわれは、一方、この宇宙の出来事はすべて、一般相対性理論(特殊相対性理論を含む)による法則と量子力学の法則に従って生起していることを知らされている。

電磁気現象は特殊相対論の枠組みの上に構築されているので、われわれが日常便利に使いこなしている電気製品も特殊相対論の法則に従って作られていると言っても決して過言ではない。また一方、スマホの頭脳にあたるCPU(Central Processing Unit = 中央演算処理装置)の本体は、小さなシリコンのチップなのだが、そこには10億個ものトランジスタが刻み込まれていて、相対論に加えて量子論の法則が支配する「ナノワールド」を造り出しているのだ。われわれは、好むと好まざるとにかかわらず、一般相対論と量子論の法則に支配されているということをおおげさではなく現実のものとして認識しなければならない。

ビッグバンによって出来立てほやほやの宇宙の温度は、2兆度を超えていたと推測されているが膨張の結果、現在の温度は絶対温度0度(*8)近辺にある。宇宙は長い時間を経て、今や冷えきっているのである。では、宇宙は死の寸前にあって間もなく消滅してしまうのかということ、それは違う。宇宙の特定の場所では、今もなお星が生まれ大きな集団をつくって成長し盛んに活動を続けているのだ。

近年の自然科学における人類の進歩は目覚ましいものがあり、多様なエネルギー資源の開発、利用が為されエネルギーの単価が低くなりつつある。そこで近い将来、先ずは大量のエネルギーがほとんど無償で得られるようになることが望まれる。そうでなければ、安心して自由に宇宙旅行もできない。

たとえば地球は、太陽から豊富に放射される光(紫外線や赤外線なども含めた電磁波)の無限ともいえるエネルギーを受けている。地球は、そのたった22億分の1しか受け取っていないが、われわれ人類はそのさらにほんの一部しかエネルギー源としては利用していないのだ。膨大な量の太陽光エネルギーが、宇宙空間に無駄に(?)消え去っていくのである。太陽光エネルギーを大量に捉え、有効に利用できればどんなに良い事か計りしれない。

近年、宇宙太陽光発電システム SSPS(Space Solar Power System)という壮大なプロジェクトが JAXA などを中心に検討されている。それにはまず、地上36,000kmの宇宙空間の静止軌道上に2km×2kmのソーラーパネルを設置する。そこで発電された電気はマイクロ波に変換され地表のアンテナに送られる。地上には受信したマイクロ波を再び電気エネルギーに替えて、各地に送電するのである。これくらいの規模で原子力発電所1基分ほどの電力をまかなえるそうで(*9)、現在、資金さえあれば、今ある技術で十分可能なのだそうである。

もちろん地上でのソーラー発電も進んでいるが、宇宙では地上の天候に左右されることなく常時、大電力を確保できることが可能である。さらにこの

送電法が精密化されて効率がよくなれば、将来高圧線など不用になり、離れ小島などへの送電も容易になるであろう。将来、月面に大規模な太陽光発電所が建設される可能性も十分ある(*10)。宇宙を飛び交う宇宙船への送電も的確になされることが期待される。さらに無尽蔵に電気エネルギーが得られるとなれば、海水を真水にするためだけの工場も建設されるであろう。将来いよいよ逼迫すると危惧されている深刻な水不足も解決されるにちがいない。

ところで、太陽エネルギーのみなもとは一体何であろうか。それについてはこれまで、何回か言及したのであるが、太陽エネルギーは大規模な水素原子核の核融合によって生み出されていることがわかっている。ウラン 235 に熱中性子(ネツ中性子)を照射するとクリプトン 92 とバリウム 141 などに核分裂を起こし同時に大量のエネルギーが放出される(原爆)のであるが、逆に、バラバラに漂っていた原子の原子核が集まって融合し同時に大量のエネルギーを放出する場合があります(水爆)、これを核融合という。たとえば、4 つの水素原子核からヘリウム原子核を 1 つ生成することは可能であるが、技術的にはたいへん難しく水爆という方法でしか地上では成功していない。エネルギーをコントロールしながら連続して核融合反応を起こさせることにはまだ成功していない。この反応は超高温、超高压の太陽や恒星の中では、通常のこととして起こっている。

2 つの水素分子の核を融合させるか、または重水素と三重水素をあらかじめ作っておいて反応させるという方法もあるのだが、これらの融合反応から得られるエネルギー量は、4 つの水素原子核を一度に融合させるものに比べて取り出せるエネルギー量は少ないのだ。

そこで4 つの水素原子核を一度に融合させる核融合反応によって取り出せるエネルギー量を数値計算してみよう。原料は水素 1 グラムとしよう。この中には水素の原子核が約 3×10^{23} 個存在し、それらが 4 個ずつすべて核融合してヘリウム 7.5×10^{22} 個が生じたとしよう。ヘリウム 1 個生成されるのに伴って、 4.2×10^{-12} ジュールのエネルギーが放出されるので、水素 1 グラムから 3.15×10^{11} ジュールのエネルギーが放出されるのだ。この値は熱量に換算すれば、 7.5×10^7 キロカロリーとなる。これは TNT 火薬 75 トン分に相当する(*11)。広島型原爆は TNT 火薬 15 キロトンに相当するらしいが、これは水素わずか 200 グラムの核融合エネルギーに相当するのだ。

取り出すエネルギーを自由にコントロールできるような核融合炉が実現すれば、たいへん(有益)なことである。原料は基本的に水素であり、重水素、3 重水素を使ったとしてもこれらは海中に大量に存在する。必要なだけ大量に消費してもほとんど減らない(*12)。エネルギーをとりだした後の核のゴミはヘリウムであるから人畜無害である。人類にとってはこれ以上望むことはあるまいと思われる。しかしながら、核融合炉を作るといえることはいわば地上に太陽を作り出すことなのだ(*13)。はたしてこんなことが実現できることなのか夢なのかそれはわからないが、いずれ実現して「天のわざを地のほまれ」にしたいと思う。

注)

(*1) 現代の宇宙物理学の最先端の理論によれば、ビッグバンが起こる直前に、ある一点が急激に膨張をはじめ、クオークとグルーオン、光などの混合物を詰め込んだ空間が 10 億の 10 億の 10 億倍にも膨れ上がったという。これをインフレーション理論といい、インフレーションの直後にこれら素粒子が結合して、原子核の構成要素である陽子(水素の原子核)や中性子などになりビッグバンが起こったというのだ。ビッグバン理論はインフレーション理論といつもペアにして論じられる。これらのことは、スティーブン・ホーキング「ホーキングの宇宙論」「ホーキング宇宙を語る」「ビッグ・クエスチョン」などに繰り返し論じられている。少し古くなったが、スティーブン・ワインバーグ「宇宙創成はじめの 3 分間」(ダイヤモンド社)も定評ある名著である。インフレーションについては、佐藤勝彦「インフレーション宇宙論—ビッグバンの前に何が起こったのか」(講談社ブルーバックス)、池内了「観測的宇宙論」(東京大学出版会)に詳しい。

(*2) 村山 斉「宇宙は本当にひとつなのか—最新宇宙論入門」(講談社ブルーバックス)、佐藤勝彦「宇宙は無数にあるのか」(集英社新書) 村山 斉「宇宙になぜ我々が存在するのか」(講談社ブルーバックス)。

(*3) 佐藤勝彦「宇宙論入門—誕生から未来へ」(岩波新書)、松原隆彦「宇宙の誕生と終焉」(サイエンスアイ新書)。

(*4) 宇宙を支配する唯一の絶対時間は存在しない。時間は空間の各部分で異なるので、相対的なものである。

(*5) われわれ人類が住む太陽系が所属する「天の川銀河」はおとめ座大銀河団の端の方にいることがわかっている。

(*6) 人々は、宇宙は始まりも終わりもなく、天空には恒星が一様に分布しているものと暗黙の裡に了解していたのであろう。この宇宙を定常宇宙といい、高名な天文学者フレッド・ホイール卿もアインシュタインでさえもそれで満足していたのだ。もし、宇宙の膨張を認めるなら、宇宙には始まりがあったことになる。ホイール卿はその始まりをビッグバンと名付けたのである。

(*7) 太陽と同程度かそれ以下の質量を持つ恒星が老齢化しその活動を停止する前に、それは白色矮星と呼ばれる白色の高密度星になることがわかっている。白色矮星は比較的ありふれた星で、それは銀河中に多く存在しているものと推定されている。たとえば、白色矮星シリウス B は地球ほどの大きさでありながら、太陽と同じくらいの質量をもつため、その密度は水の 40 万倍もある。白色矮星がそれを回るガス惑星を伴っていることがあり、白色矮星の強力な重力によって、惑星のガスが奪われ、白色矮星が太ってくる。ある一定の限度を超えたところで、白色矮星はすさまじい超新星爆発をおこすのだ。白色矮星は太陽と同程度の恒星で、超新星爆発を起こすエネルギーもみな同程度である。この白色矮星由来の超新星爆発を探すのだ。すると爆発の光度を測定してそこまでの距離がわかる。超新星の後退速度は精密に測定できる。こうして集められたデータは米国の天文学者ソール・パールムッター (1959-)、同アダム・リース (1969-)、オーストラリアの天文学者ブライアン・シュミット (1967-) ら 3 人によって精密に解析され、宇宙は加速膨張しているという結論が得られたのだ。2011 年、かれら 3 人には早々とノーベル物理学賞が授与された。

(*8) 絶対温度 $T(K)$ と セルシウス温度 $t(^{\circ}C)$ との間の換算式は

$$T(K) = t(^{\circ}C) + 273.15$$

で与えられる。これから絶対零度 $0 K$ (ゼロ K 。 $0^{\circ} K$ とは書かない) は、マイナス

273.15 °C に相当することがわかる。温度は絶対零度以下にさがることはない。 - 273.15 °C 以下の低温は存在しないのである。現在の宇宙空間は、2.725 K のマイクロ波背景放射によって満たされており、これが現在の宇宙の温度を示していると考えられる。現在の宇宙の温度は、セルシウス温度(セ氏)にして - 270.425 °C とされている。

(*9) 加藤俊夫「JAXA の宇宙太陽光発電」(エレクトロニクス実装技術 2018 年 12 月号)。送電に際してマイクロ波やレーザーが通る道を野鳥などが通過した場合どうなるか心配であるが、野鳥への影響はほとんどなく、焼き鳥になることはないのだそうである。

(*10) 近年、月面には多くの火山性洞窟が発見されている。筆者は月面の洞窟が将来の人間の住居として利用されると考えている。なぜなら、月面には今なお大小の隕石が多数ふりそそいでいるからである。月の表面に住居を建てるなど危険きわまりないと思われる。

(*11) 爆発のエネルギーを TNT(トリニトロトルエン)火薬の爆発エネルギーに置き換えて示すことが行われ、これを TNT 換算という。1 TNT = 1 kcal である。

(*12) 太陽の中では、1 秒間に水素約 400 万トンが核融合によって消費されているが、これまでに(40 億年経たとしても)消費された水素は太陽全体の 3% ほどにしかならないのだ。

(*13) ギリシャ神話によれば、プロメテウスが太陽の火を盗み出し、人に伝えたのだ。そのため、大神ゼウスの怒りを買って、世にも苛酷な刑罰をうけることになった。現代のサイエンスのレベルで、地上に太陽を創り出すことが果たしてできるのだろうか。

「天のわざ、地のほまれ」完

中国人から見た

日本人の言語表現心理 (1)

俞彭年

私はかつて日本語教師を務めたことがある。それは 1963 年から 1983 年まで上海外国語大学でのことだった。二十年前であるが、途中で文化大革命がはさんでおり、日本語教育に実際携わったのは十四、五年間だろうか。

初め日本語教師を務めるのは不本意だった。というのは日本語教育は私の大学の専攻でもないし、私の得意とするものでもなかったからである。私の日本語は確かに母国語同然であったが、日本で受けた教育はたかだか高等学校一年中退までのものにすぎなかった。まして途中で日本敗戦前後の混乱で途絶えた時間があった。しかし、このようなことにもかかわらず日本語教師になってしまったのはあの時代の仕業だというしかない。これは幸いなのか不幸なのか、私の多くの友人は当時から幸と受け取っていたが、私は自分の専攻に未練があったため、時がだいぶ経ってからだんだんと幸と思うようになった。

転業であるから、一からの出直しだった。大学にある日本語教育関係の本をすべて読み通した。特に、文法関係の本は何回もかじった。もちろん、当時数十冊しかなかったからできたことだったが。そのときからだんだんと日本語教育にのめりこんでいった。教えているうちに自分の考えが生まれてきた。そしてそれを実践に移していった。発音、語彙、文法の三要素だけではどうも足りなく、漠然としてまだ何かが必要に思われてきた。しかし、それ

は何か、当時混沌として言い表せなかった。

ある時期、金田一春彦先生と芳賀綏先生の本を読んでいて、「言語表現心理」という概念が生まれてきた。思えば中国人が中国語で物事を表現するときの発想や心理などは日本人が日本語で表現するときの発想や心理などとは確かに違いがある。だから、もしこの違いを発音、語彙、文法の三要素と一緒に教えられたら、教育の効率はきっと上げられるものと思ひ込むようになった。私はそのときから「日本人の言語表現心理」という課題を自分に課して研究してみようと思ひ立った。

ちょうどその時、運よく私にも日本での研修の機会が回ってきた。1982年の一年間、法政大学のお世話になって研修をさせていただいた。しかし、課題の研究は思うように進まなかった。この面の図書がほとんど見つからず、手探り状態が続いた。切り口としての日本人の国民性を論じた本、日本文化の特徴や文化パターンなどを論じた本、日本語の特徴を論じた本などを懸命にあさった。しかしおぼろげな枠組みしか構築できず、一年の研修を終えて帰国した。この領域の研究はまだ進んでいないという認識のもとに、大学に戻って自分で進めていく覚悟をした。

時代の翻弄というべきだろうか、大学に戻って半年あまり、1983年の夏突然転勤、転業の辞令が出た。こんどは上海市の外事関係の仕事にせよ、ということでもた一からやり直しの羽目になってしまった。始めた研究を引き続き進めようと張り切っていた矢先であるため、実に不本意であった。

今度の転勤は、まわりの友人はみな反対した。家内まで反対した。理由は、私のと違い、外事の仕事は政治領域の仕事であり、私のような華僑出身では文化大革命時の二の舞をもたらす危険が大というのである。

もっともな話である。文化大革命の時はさんざんな目にあつた。私のために家内までひどい目にあつた。もしまたあの時のようなことが起こったら、私は絶体絶命だと言われた。その通りだと思つた。そこで私は、再三自分には不向きだと言って断つた。このまま日本語の教育と研究を続けさせてほしいと懇願した。しかし叶わなかった。

不幸中の幸いというべきだろうか、外事関係の仕事は日本との関係が多く、日本語は十分活用できた。更によかったことは、日本人との接触や日本訪問などが多く、「日本人の表現心理」の研究環境としては大学の閉ざされた環境より遙かによかった。しかし、時間と心のゆとりがなかった。ただ、ときおり何かのきっかけであれこれと思案するだけだった。こうして、十六年間の宮仕えを1999年にやっと終えた。

定年退職後は長崎県のお世話で、県立シーボルト大学に移り、また教員生活を始めた。今回も一からのやり直しだった。日本の大学での講義は初めてだし、担当科目もみな新しいものだった。二年経ってだんだんと適応ができてきて、心にゆとりが出てきたので、余暇に「日本人の言語表現心理」をこれまでに思案してきたものを思うままに綴り始めた。出来たものを『中国人から見た日本人の言語表現』として学部の年一回の紀要に載せて発表させてもらった。

これも今回で5回になり、そして教員生活も終わりに近づいてきたため、けりをつけることにした。何だか身の重荷が降りたような気持になった。も

し中国国内で発表の機会があったら、諸氏の指摘が得られると思うのだが、そして、中国国内の日本語教育にいささかの役に立つのではないかと思う次第である。 2006年長崎にて

米国の統治の仕組みと大統領制、と建国の父たち（6）

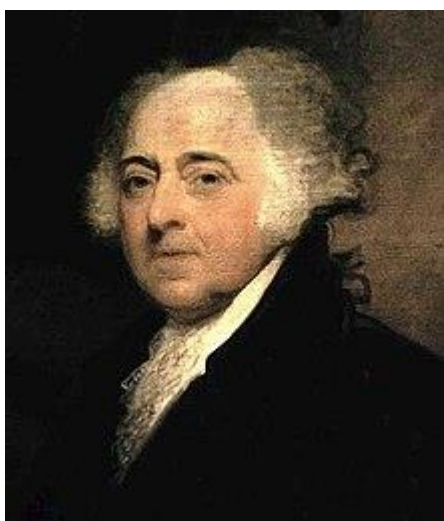
佐川雄一

2. 建国の父たち（2）

2-1. 初代大統領：ジョージ・ワシントン

（492号・掲載済）

2-2. 第2代大統領 ジョン・アダムズ



ジョン・アダムズは、1735年10月30日、マサチューセッツ州で誕生、1826年7月4日、80歳で逝去。アメリカ合衆国建国の父たちの一人である。身長5フィート7インチ。

ハーバード大学で学び、父親から聖職者の道を歩むよう勧められるが、途中で諦め、弁護士を選ぶ。若いころから、独立を叫び行動を起こす。1776年7月、マサチューセッツ植民地を代表する代議員の一人として第2回大陸会議に参加する。会議開催中に、13植民地が「独立宣言」を発表する。独立宣言の起草は自分が取り仕切るべきと考えていたものの、敢えてトーマス・ジェファソンにその任務を任せることを決断する。

ジョン・アダムズは、北アメリカ最初の永続的植民地：ヴァージニアの出身者が「独立宣言」起草の主導権を握らなければ会議は紛糾すると憂慮していた。この時、アダムズとジェファソンの間でこんな会話があった。

「なぜ 君が起草文をまとめた方がよいのか教えよう！ 第1の理由、君はヴァージニア人だからだ、第2の理由：俺は粗野で余り評判がよくない、君はその反対だ、第3の理由：君は俺より10倍くらい上手く起草文をまとめ上げる能力を持っている」

ジェファソンはジョン・アダムズのこの言葉を受けて起草文に取り掛かったという。起草文ができあがった後、ジョン・アダムズは、ベンジャミン・フランクリンとともにドラフトを読み、若干の修正をしたものの、草案を会議に上程し、代議員の賛成を得て、独立宣言の発表となった。

その1年前（1775年6月）、ワシントンはアメリカ連合軍の総司令官に任命されているが、ここでも、ジョン・アダムズが裏で取り仕切った。ヴァージニアが主体となって行動しない限り、アメリカ連合軍の創立構想はまとまらないと考え、ワシントンをアメリカ連合軍の総司令官に推挙したのである。ジョン・アダムズには物事を俯瞰的に、地平線の彼方で何が起こるか見る目が培養されていたのであろう。

その後、ジョン・アダムズは、オランダ大使としてハーグに赴任（1780年）する。

オランダは、世界で最初に合衆国の大使館開設を認めた国であり、世界の金融・貿易の中心地でもあった。アダムズは二国間の通商拡大に努めるとともに、オランダからの借款に尽力、成果を収めた。1783年には、「アメリカ独立戦争の終結に伴う英国との和平交渉」がパリで開催されるが、ベンジャミン・フランクリンとともにパリで、和平交渉の任務に当たった。

ジョン・アダムズは、1789年3月、ジョージ・ワシントンが初代大統領に選ばれると副大統領職を遂行できるのは自分しかいないとチャンスを待ち、見事、副大統領の職を手に入れた。しかし、国家の発展、国益のために大きく貢献してきたアダムズにとっても、知名度抜群のワシントン大統領の下では、存在感を示す機会は多くなかった。

ワシントンが、「公職には任期がある」として3選を断ると、アダムズは大統領選に立候補し、当選、第2代大統領として4年間（1797年3月-1801年3月）務めることになる。トーマス・ジェファソンが副大統領に就任する。1801年、アダムズは大統領の2選を狙うが、ジェファソンに敗れ、下野する。

ジョン・アダムズに関連してもう一点挙げる。1789年、ワシントン政権が誕生した時の行政府はニューヨークにあった。翌年の1790年、フィラデルフィアに移り、ワシントン特別区に首都機能が移ったのは1800年、ジョン・アダムズ政権期であり、アダムズが最初のホワイトハウスの居住者になった。

満州国を考える（2）

加藤幹雄

二）歴史を辿る

1) 日露戦争から満州事変まで

- 1904-5年 日露戦争。戦争での勝利（辛勝）によって
- ・満州での権益を獲得（ポーツマス条約）。

- ・旅順・大連の租借権、
- ・長春以南の鉄道とその付属地の利権等（鉱山や森林資源の開発権を含む。南満州鉄道が創設される）、
- ・付属地への軍隊の派遣（当初1万人に限定される。これが関東軍の起源、最後は70万人になる）、
- ・南樺太の割譲等。

※米国の鉄道王ハリマンの提案（分れ目その1）

日露交渉がまとまったのは1905年8月29日だが、全権大使小村寿太郎がまだ帰任していない8月31日に早くもアメリカの鉄道王エドワード・ハリマンが来日。彼は日露交渉を仲介したアメリカ大統領セオドア・ルーズベルトから条約の内容を知らされており、彼の示唆で、日本が得た権益である満洲南部の鉄道を日米合弁で経営しないかという提案を持参した。桂内閣や伊藤博文、井上馨のような元老達は、日露戦争で財政が窮迫していること、大陸での鉄道経営の経験が無いことから、この提案に渡りに船と賛成して10月12日には実質協定書とも言える覚書まで作成。

ハリマンの帰国直後に、ポーツマスから帰任した小村寿太郎はこれを知って激怒。日露交渉で賠償金が取れなかったことで民衆の不満が高まっており、加えて折角得た利権の一部をアメリカに譲渡することになれば事態が収拾つかなくなるというのが反対理由で、結局、満鉄が日米合弁となる構想は潰えた。ハリマンには清国の含意に難があるという理由で断りを入れた。満鉄が日米合弁で経営されたとしたらその後の日本の満洲へのスタンスは変わったかもしれない。

1910年・日韓併合。

1911年・孫文による辛亥革命。これは失敗に終わり袁世凱が総統に。

1915年・第一次大戦の後、中国に対して対華21か条要求を出す。

相手は袁世凱総統。要求には、山東省のドイツの権益継承、旅順、大連の租借期限を1997年まで、満鉄の権益を2004年まで延長すること等が含まれていた。「但しその後ワシントン軍縮条約の場を借りた米、英の干渉により、要求に含まれていた山東省の利権は放棄。」この間の日本と英米との対立により日英同盟解消(1902－1921)に繋がる。

1919年・反日運動が盛り上がり五四運動が起きる。袁世凱が条約を受けた5月9日は国辱記念日とされた。朝鮮では3月1日に朝鮮独立運動が起きた。(三一運動)今年(2019)は100年目に当る。

1926年・蒋介石等による北伐開始。中国の統一を目指す。その後も紆余曲折があるが、蒋介石率いる国民党が中国統一をリードする最も有力勢力と見られる。

※中国東北部（満洲）の状況

中国では広東政府が形成されて国士統一を目指す。北京地区には張作霖をヘッドとする軍閥政権があり満洲の奉天までをほぼ傘下に入れていた。他に多くの軍閥が割拠。

満洲は清朝時代に漢族の流入を抑制する政策を取っていたが；清朝の崩壊と

共に漢民族が大量に流入。満洲事変当時で中国人3000万人（殆どが漢人で満洲人は1割程度、それも漢人に同化されていた）、日本人12万人、朝鮮人の移民も多数（約80万人）居住していたとされる。（敗戦時には全体で4300万人、内日本人は155万人）

満洲侵攻の正当化には結びつかないが、「中国の国家主権は満洲に及んでいなかった。その頃は化外の地で誰が治めているか分からないような土地だった。馬賊や匪賊が跳梁する土地で張作霖や張学良親子もその有力な領袖の一人だった」（粕谷一希「歴史をどうみるか」）こともまた確かだった。

※満洲事変前の状況

日本では日露戦争で権益を確保し、日本人屑住者が増えていることもあり、満蒙は日本の「生命線」であるとの論調が大きな影響を与える。朝鮮を併合したことにより満洲は国防の要地であり、満洲を傘下に入れてソ連の南下を防ぎ反共の砦としたい。日本の経済のためにもその資源が魅力がある、第一次大戦によるバブルが去って不況が深刻化する中で高い失業率による余剰人口のはけ口としたい等。

※「五族協和」「王道楽土」のイデオログ達・その一人・橘撲（たちばな・しらき）（1881-1945）

ジャーナリスト。1906年に中国に渡る。中国社会への深い洞察を行う。魯迅から「あの人は僕たちよりも中国人を知っている」と言われた。「中国は停滞した国でも無秩序な国でもない。中国が武力闘争に不適當な政治組織しか持ち合わせていなかったからだ。中国とは対等主義，平等主義の立場に立ち、世界の有色人種の利益のために手を組むべきである。」

初めは日本は満洲での権益を放棄すべきだと言っていたが、その後転向して、関東軍の満洲での行動を肯定。「軍閥の支配を排除した独立国家を作ったことを評価し、アジア解放の礎にもなり、これは祖国の改造にも繋がり、資本家階級の搾取からの解放にも繋がる。」

満洲では地域の自治運動を提唱。農民民主主義を進めて、重農主義の立場に立って農業国家として再生させることを提唱。「アジアの民族にとっては、王道思想は伝統的思想であり、王道国家建設が民衆自治の形態をとって現れることになる。」

橘の影響を受けた佐藤大四郎（1909 - 1943）は、一高中退後に渡満、興農会社を設立、貧農を組織して、協同組合型の農業を展開したが、これが共産主義の思想活動だとの嫌疑がかかり、満洲国治安維持法によって、関東軍慮兵隊から弾圧を受けた。佐藤のグループに満鉄調査部のスタッフが居たことから、満鉄調査部にも捜査が及び44名が逮捕された。これは満鉄調査部事件と呼ばれる。佐藤は獄托している。

※石橋湛山（1884 - 1973）の小日本主義

「東洋経済新報」に掲載した彼の冷静で論理的な主張は評価出来る。1921年に「一切を捨つるの覚悟」を発表。「日本は満洲の権益は放棄して、日本は軽武装通商国家として中国に向き合うべきである。軍備の強化は資源の無駄遣いであり何も成果を生まない上に反発を買う。自由貿易、国際分業のメリッ

トを最大限享受するために産業の競争力を高めることに資源を使うべきである」として、数字を上げて軍事国家型と通商国家型の比較を展開し、軍事国家型ははるかにコストがかかることを論証。

(当時の日本資本主義の根幹は繊維産業であり、綿花のような原料資源の供給先であると共に絹・木綿織物の市場として大きく中国に依存していた。従い反日感情による日貨排斥運動は大きなマイナスインパクトを与えていた)

(石橋の「軽武装通商国家」は戦後の日本のモデルともなった)

※中国側との葛藤

失った権利回収の動き。日貨ボイコット。満鉄を包囲する鉄道網の構築。満鉄と中国鉄道とは鉄道貨物の確保については競合関係にあり、将来の路線拡張を巡っても、満鉄と中国側との交渉が重要課題だった。中国側では張作霖が主な交渉の当事者の一人だった。

<日本側の土地収用に反抗>

1928年8月、張作霖爆殺事件 (分かれ目その2)

戦後になってから関東軍の高級参謀河本大作大佐が仕組んだ謀略であることが判明。これは失敗だったのでないか?当時の満鉄総裁山本条太郎は張と鉄道網をどう作るか交渉を行ってほぼ合意に達していた。山本は「自分が満洲に来て計画し今後やろうとしたことは全部水泡に帰した」と嘆いた。

彼が生きておれば満洲国の形も変わったかもしれない。満洲国のトップに張作霖の後を継いだ息子の張学良を据えるという話もあった位で、張作霖が生きておれば彼を担ぐこともあり得たかもしれない。

その後張学良を完全に敵に回した。彼は蒋介石と組む方向を選択。さらには、1936年12月西安事件で国共合作を成立させた。

1930年5月ー7月、五宝山事件。満州に植民した朝鮮人に対して中国人農民が暴動を起こした。朝鮮国内の中国人が襲われる。(つづく)

『誰も見ていなくても良いことをする』社会 (7)

臺 一郎

日本人のきれい好きと神道信仰

日本の都市の道路や駅や公園が大変清潔でゴミも落ちていないのは、経済的に豊かになったことで日本人の公共道徳やマナーが向上した、すなわち衣食足って礼節を知るようになったという面も当然あるだろう。けれども、それにも増して日本人の清潔好きという面がありそうだ。

日本人の清潔好きは、無類の風呂好きであることにも表れている。東京ガス付属の都市生活研究所によれば、日本人の風呂好きは殆ど世界一と言って良く、家庭での入浴頻度も断然高い。ちなみに毎日浴槽につかる人の割合は米国人が10人に1人。それに対して日本人は夏が3人に1人、冬ともなれば2人に1人だという。

今から150年前、開国後間もない幕末の我が国を訪れた欧米人は、日本人

が毎日欠かさずというほどの風呂好きであり、清潔へのこだわりの強いことに感心した。例えば 1856 年、初代米国領事として下田に赴任したタウンゼント・ハリスは、すぐに日本人が大変な風呂好きであり、清潔好きであることに気づいた。彼は著書の中で「日本人は誰でもが毎日沐浴する。職人、日雇労働者、あらゆる男女・老若は、仕事を終わってから毎日入浴するので、下田には沢山の公衆浴場がある。料金は銭六文だ」と書いている。

初代英国領事で後に公使となったラザフォード・オールコックも著書の中で、日本人の清潔への強いこだわりを『一般に日本人は清潔な国民で、人目をおそれずたびたび身体を洗い、身に着けているものはわずかで、風通しの良い家に住み、家は広くて風通しの良い街路に面し、そして街路には不快なものは何物も置くことが許されない。こと清潔という点に関して、日本人は他の東洋民族より大いに勝っており、特に中国人には勝っている』と強調している。

トロイヤの遺跡の発掘者として知られるドイツの考古学者ハインリッヒ・シュリーマンは、1865 年清国を訪問した後にわが国を訪れた。彼は約一ヶ月間にわたる日本滞在中に見聞したことを旅行記としてまとめた。その中で日本人の風呂好きについて「日本人が世界で一番清潔な国民であることは異論の余地がない。どんなに貧しい人でも少なくとも日に一度は町にある公衆浴場に通っている」と紹介した。

フランス公使館の駐在武官エドワード・スウェンソンは、滞在記「日本素描」の中で、日本人の風呂好きと清潔好きについて『日本人の清潔好きはオランダ人より遥かに発達していて、これは家屋だけでなく、人物一般についても言える。仕事が終わってから公衆浴場に行かないと一日が終わらない。公衆浴場で何時間も湯を浴び、下着を洗って、おしゃべりの欲求も満足させる』と紹介している。

さて、こうした日本人の風呂好きは前述したように清潔への強い拘りのせいなのだが、それではなぜ日本人はそれほどまで清潔にこだわるのだろうか。

高温多湿で蒸し暑い夏の気候のせいもあるだろう。が、筆者はむしろ宗教的な理由からだと思う。神社に行くと境内はきれいに掃き清められ、建物内部の床はほぼ毎日雑巾掛けがなされている。これは神道では、神を祀る場所は不浄であってはならないという厳しい定めがあるからだ。また、お清めという行為や儀式もある。大きな神社などに行くと、社殿の手前に水場があり、そこで手を洗い、口を漱ぐ。神の前に行くにはまず身を清めてからということだ。水で体を清めるという行為は、もともとは川や海などに浸かって身体を清める禊（みそぎ）という儀式から始まったとされる。

ところで皇居内庭の吹上御苑の神域内に宮中三殿という施設がある。一言でいえば宮中の神社である。先日行われた天皇退位の礼や即位の礼などの儀式の一部もそこで行われた。主要な建物は、賢所（かしこどころ）、皇霊殿、神殿の三つ。賢所は三種の神器のひとつ八咫鏡を天照大神の御霊代として祀

る場所で、もっとも神聖で重要視される。皇霊殿は神武天皇から始まる歴代天皇や皇后などを祭る施設だ。そして神殿は天皇を守護する八百万の神々を祀る施設である。

天皇・皇后や皇太子ご夫妻以外で宮中三殿の内部に入ることを許され、日々の御用を勤めているのは男性の掌典職と女性の内掌典と呼ばれる人々だ。最近、57年間に渡って内掌典を勤めた女性の手記が出版された。それを読むと、神道がいかに汚れや穢れを嫌い、清らかさを大切にすることがよくわかる。

例えば内掌典の女性が皇居から外に出て買い物などをして、再び皇居に戻る際には、そのまま三殿内部に入ることは許されない。普段起居している三殿付属の自室で外出時の衣服は全て脱ぎ、手を洗い、口をすすぎ、湯殿に移動して全身を湯で清め、御用のための専用の和服に着替えてから内部に入る。また、下半身は不浄とされるため、着替えの最中に足腰や衣服の下半身部分に手が触れれば、その度に手を清める。ともかく内掌典が三殿内でなんらかの御用やおつとめをする際には、その都度手を水や塩で洗い清め、口を漱ぎ、下半身や身体はお湯を流して清めるのである。

こうしてみると、日本人は他の民族と比べて、宗教的な理由からも身体や身の回りの環境は、常に清潔で穢れないものにしておきたいという意識が一段と強いのもかもしれない。

会員の広場（クラシック座談）

「静聴雨読庵より」

尾関陽四

サロン・ド・ミュージック・クラシック（第5回）

(6) シューベルトの室内楽曲と器楽曲

5回目の「サロン・ド・ミュージック・クラシック」は私の主宰でわが家に集まった。原田さんと山崎さんが参加した。また、久田さんが飛び入りで参加した。久田さんは蔵書家で、40本の本棚にあらゆる人文系の本を収納しているという噂だ。

尾：寝室とオーディオルームを交換しました。オーディオルームが広くなり3人や4人が座って十分試聴できる空間ができました。また、アンプをラックスマン L-507ux11 に替えました。最新モデルです。

山：音がゆったりと広がりますね。これだけ部屋が大きいと、大口径のスピーカーが欲しくなりませんか？

原：タンノイ Westminster Royal はいかがですか？

尾：……。 (ややあって) 実は、これを購入しました。

山：や、これは何ですか？

尾：イタリアのチャリオの SONNET です。ご覧の通りスタイリッシュなスピーカーです。

山：音色はこれから聴いていきましょう。

テーマは 「シューベルトの室内楽曲と器楽曲」。

尾：今回は、第3回の「シューベルトの声楽曲」に続いて、またまたニッチなテーマに落ち着きました。シューベルトは、多数の弦楽四重奏曲とピアノ曲を作曲し、ほかにも、『アルペジオーネソナタ』やピアノ五重奏曲『鱒』などの傑作を残しています。彼の室内楽の魅力をとことん探りましょう。

山：いいですね。シューベルトの室内楽は不案内なので、勉強させてください。

原：たくさん CD を待ってきました。

久：初めてですが、よろしく願いいたします。

尾：前回のブラームスの時と同じように、ソナタ系と多重奏系に分けて聴きましょう。まず、ピアノソナタから。私はリヒテルとブレンデルの演奏を持ってきました。

山：『即興曲・D. 935』を聴かせてください。

尾：ブレンデルの演奏です。

山：これは好きですね。平坦な音の羅列のようですが、奥が深いです。

尾：ブレンデルはこれにふさわしいピアニストだと思います。

原：私はマリア・ジョアン・ピレシュの演奏を持参しました。『楽興の時 D. 780』を聴きましょうか？

山：お願いします。ブレンデルに比べて、音がよく立ちますね。

尾：シューベルトは冗長だと言われますが、『即興曲』や『楽興の時』はそのそしりを免れています。

原：『ヴァイオリンソナタ D・574』アデーレ・アンソニーとジョナサン・フェルドマンの演奏です。

尾：これはいいですね。知らなかったソナタです。

尾：次に、『アルペジオーネソナタ D. 821』を聴きましょう。アルペジオーネはチェロの前身の楽器ですが、今では、チェロで演奏するケースがほとんどです。ロストロポーヴィチとブリテンの演奏です。

原：チェロの押し出しが素晴らしいですね。

尾：今のは CD ですが、同じ演奏の LP もありますので、併せて聴いてみましょうか？

原：いいですね。

山：LPの方が柔らかい音が出ています。

尾：次は、『ピアノ五重奏曲「鱒」D・114』です。

山：待ってました！

原：私は、ムターとトリフオノブほかの演奏を持参しました。

尾：この曲で、SIGNUM と SONNET の聴き比べをしてみましようか？

山：いいですね。SONNET の方が低音が良く鳴ります。

尾：2系統のスピーカーを同時に鳴らしてみます。

山：これは素晴らしいです。いつもこれで鳴らせばいいのに。

尾：ピアノソナタなどは1系統のスピーカーで聴くのにこだわりたいのですよ

山：でも、五重奏曲では絶対2系統の方がいいです。

尾：管弦楽曲や協奏曲もそうでしょうね。

ほかに、

- ・『弦楽四重奏曲「死と乙女」D.810』（ジュリアード弦楽四重奏団）
 - ・『弦楽四重奏曲「ロザムンデ」D.804』（アルバン・ベルク四重奏団）
 - ・『ピアノ三重奏曲第I番 作品99』（スーク・トリオ）
 - ・『弦楽五重奏曲D・956』（ウィーン弦楽五重奏団）
- を試聴した。

尾：今日の試聴で良かったのは？

山：『ピアノ三重奏曲』『弦楽五重奏曲』『アルペジョーネソナタ』

原：『アルペジョーネソナタ』の特にCD版。『弦楽五重奏曲』

久：『ヴァイオリンソナタ』『弦楽五重奏曲』

尾：『ヴァイオリンソナタ』『アルペジョーネソナタ』『弦楽四重奏曲「死と乙女」』『ピアノ三重奏曲第1番』

原：ピアノソナタが挙がりませんでしたね。

尾：予想していましたが、やや残念です。

尾：私はオーディオの深いところはわかりませんが、「音の柔らかさ」の基準で判断すると、いくつかの発見がありました。まず、アンプをラックス L-507UXII に変更して柔らかさが増しました。

山：従来のものに比べて格が違うので当然です。

尾：次にスピーカーを SONNET にしたら、柔らかさが格段に上がりました。

山：価格は？

尾：SIGNUM の倍です。

山：じやあ、当然です。

尾：CD と LP を比べると、LP の方が柔らかさが出ます。また、カートリッジをMC型に替えたら、柔らかさが格段にアップしました。

山：アンプを管球型に替えたらさらに柔らかさが増しますよ。

尾：以前、ラックスマンSQ38FD を使っていましたから、ご意見はわかります。でも、管球型は発熱が大きいこと、真空管の摩耗の心配をしなければいけないこと、さらに質量が大きいことなどの欠点もありますので、今はそこまで冒険するつもりはありません。同じ理由で、純A級アンプにも手を出しません。ここまでのシステム変更で柔らかさが大幅に増したことで満足しています。

久：私もこのオーディオシステムの素晴らしい音に感激しました。また聴かせてください。

会員の広場（回顧）

城下町弘前にて（其の一）

早川和雄

弘前駅のホームは閑散としており、乗降客はまばらだった。すぐに弘南バスに乗り弘前城に向かった。途中で荷物を載せた数台の馬車に出会った。昭和41年3月初めの、弘前の街である。

際立つ白さの天守閣が残っていて、その前の大きな広場のすぐ下に、広いお濠が見渡せ、何隻かのボートが浮かんでいた。濠を越えたはるか彼方に、津軽富士(岩木山)の嫺かな姿が望まれた。夕陽に照らされたその美しさに、しばし時の過ぎるのを忘れた。5月の連体の時は、お城全体が桜の花で覆われ、数万の人で賑わうとのことである。翌日の大学の入学試験は特に何事もなく無事終わった。先輩もおらず、知り合いが1人として居ない街での生活は、途方もなく寂しかった。

下宿の窓から遠くに走る夜汽車の明かりが見え、ビーという汽笛の音に、あの汽車は明日の朝は上野に着くと思うと、限りなく東京が懐かしかった。

修学旅行で桐朋の後輩や諸先生が弘前に寄ってくれた。Y君の弟さん、後に私と同学部に入るK君始め多くの後輩達、母校の担任であった佐藤哲郎先生始め付き添いの諸先生方とお会いし、桐朋時代の話に花が咲いた。嬉しかった。

特に西村先生(御子息は1期後輩)は、担任して戴いた事もない私を覚えておられた。青森の県立病院の裏の職員入口からフラァと入ってこられて、『早川君。元気かい。』以前、夏季休暇のある日、余りにも喧騒な自宅を離れ、学校の教室に独りでいた私に日直の西村先生曰く『教室を使う事は構わないが、火の用心だけはくれぐれも気を付けて下さい。』きつと私が喫煙すると思われたのだろう。たったそれだけの接点であった先生が、青森の病院まで訪ねてこられた。驚きもし、心より感謝、感激であった。

弘前城の桜は日本中に知れ渡っており、私が改めてここで述べる事も無い。但し弘前城の桜を見るには、早朝をお勧めしたい。昼間の喧騒が嘘のような静けさに、より素晴らしい花見ができる。又足跡の全く認めない、白雪が降り積もった弘前城もお勧めしたい。以下、お城については、大宰治作「津軽」(新潮文庫)から引用する。

『「や！富士。いいなあ」私は叫んだ」富士ではなかった。津軽富士と呼ばれている一千六百二十五メートルの岩木山が、満目の水日の尽きるところに、ふわりと浮んでいる。実際、軽く浮かんでいる感じなのである。したたるほど真蒼で、富士山よりもっと女らしく、十二単衣の裾を、銀杏の葉をさかさに立てたようにばらりと開いて左右の均斉も正しく、静かに青空に浮んでいる。決して高い山ではないが、けれども、なかなか、透きとおるくらいに嬋

娟たる美女ではある。(略)、

私はこの旅行で、さまざまの方面からこの津軽富士を眺めたが、弘前から見るといかにも重くどっしりして、岩木山はやはり弘前のものかもしれないと思う一方、また津軽平野の金木、五所川原、本造りあたりから眺めた岩木山の丹精で華奢な姿も忘れられなかった。(以下次回)

海外での思い出

森永善彦

皆さま今日は。昨年9月からブドウ栽培奮闘記を3回にわたって寄稿した森永善彦です。今回から私が海外で経験した出来事を月1回位のペースでお届けします。今仙台で週1回のペースでスペイン語教室に通っていてかれこれ4年半になります。歳を取って物覚えも悪くなっているのです、講師の講義を聞いているだけでは中々スペイン語が上達しません。その為自発的に毎週1回A4用紙1枚のスペイン語の発表をする事にしました。これは3年位続けて今年の1月で終了しました。昨年春ごろからは私の海外での体験談を発表していました。これは31回続けて今年の1月末で終了しました。このスペイン語教室での発表を土台にして皆様にも海外での経験のお話ししたいと思えます。

大学を卒業しトヨタ自動車販売に入社し、1981年にトヨタ自動車販売とトヨタ自動車工業が合併してトヨタ自動車株式会社(今後トヨタに表記を統一します)になりました。その様な中入社以来部が変わったり海外勤務になったりしましたが、ずっと海外の営業部門で勤務しました。これまで海外で訪問した国/地域のは数は75か国/地域です。旅行が趣味と言う事では無く、大半の場合トヨタでの勤務中に出張で訪問しました。

これから海外で訪問した場所の中で印象を受けた場所や変わった経験をした出来事をトピックとしてお話しする事にします。一般の海外旅行では経験出来ないことを沢山経験しました。思いつくままお話しするので実際に行った時期は前後します。

1) アテネ

まずアテネに行った時のお話をします。多分アテネには7-8回は行っていると思います。初めてアテネを訪れた時のトピックです。

最初にアテネに出張で行ったのは1981年頃一人で行きました。35歳の時です。トヨタで所属していた部の中でヨーロッパを担当しその時は2週間強でギリシャを含めヨーロッパの5-6か国を訪問したと思います。

トヨタの海外でのトヨタ車販売はトヨタの車や補給部品を輸入販売しているディストリビューター(長いので今後代理店と表記します)に任せていました。この代理店がその傘下に実際にお客さんに小売りをするディーラーを抱えて車や部品を販売していました。例えばギリシャでは代理店の傘下にギリシャ全土に100軒位のディーラーが有りました。

その頃の私の仕事は代理店の部品部を訪問し部品の販売/供給について打ち合わせをする事です。

業務の中身を詳しく話すと長くなるので業務説明は省きます。その時の出張の最初の訪問地がギリシャのアテネでした。その頃のヨーロッパ便はシベリア経由の短時間のルートは無く、北回り便でヨーロッパに行きました。北回り便とは成田からアラスカのアンカレッジを経由し、そこから北極圏の上を通りヨーロッパ諸都市に行くルートです。まだシベリア経由の飛行機便はありませんでした。

アテネに行くには16-7時間掛けてまずヨーロッパの経由空港に着き、そこで便を乗り換えて行く必要があります。

その時はオランダのアムステルダムに着きました。そこで飛行機を乗り換えアテネに向かいました。アテネはその頃ヨーロッパの中で日本から一番時間の掛かる場所でした。乗り換え時間を入れて合計22-3時間かかりました。アテネに関しては事前に特に調べなかったので、何の予備知識も無くアテネに着きました。

アテネに持っていたイメージは漠然とアクアポリスの上にパルテノン神殿が燦然と輝き古代の街並みが整然と広がっていると言う物でした。実際にアテネに着いて見ると緑の少ない丘陵地帯に、日干しレンガで出来た白い家々が雑然とひしめき合っていて広がり、雨が少ないので大気は埃っぽく中近東の何処かの街に来た様な思いに捕らわれました。大分期待外れでした。

実際に市街の狭い道路に多くの車がひしめき合っていて、大気汚染がひどいので大気汚染を緩和する為当局が市内入る車の量を制限していました。ナンバープレートの末尾が偶数の車は偶数の日だけ市内に乗り入れられる。奇数ナンバーは奇数日だけと言う按配です。

お金のある人は偶数のナンバープレートと奇数のナンバープレートの車を複数台所有し、毎日アテネに乗り入れていたようです。 第1回完

文化講座・講演会

奈良興寺文化講座 2019年6月20日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

「福島復興祈念展 興福寺と会津

～徳一がつかないだ西と東』によせて」

福島県立博物館副主任学芸員 塚本麻衣子

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学)文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

第107回 新三木会 講演会のご案内

1. 日時 6月20日(木) 13時～ オリオンルーム
2. 講師 本村凌二氏 東京大学名誉教授 古代ローマ史研究家
3. 演題 『歴史哲学としての世界史』

4. 申込 Eメール：shinsanmokokai@gmail.com

電話：070-6994-0137 フルネーム・卒年・所属（紹介者）記入。

天地シニアネットワークと言って申し込んでください

5. 会費 一般2千円、 婦人千円、学生（院生）無料、茶話会ありません

6. ホームページ <http://jfn.josuikai.net/ircle/shinsanmokokai/>

7. 今後の予定

第108回 7月18日（木）『日本の財政危機と税制—消費税の基本』
森信茂樹氏 中央大学大学院教授 東京財団上席研究員元財務省

第109回 8月15日（木）『昭和史からの教訓』
保阪正康氏 日本近代史・歴史家・ノンフィクション作家

第110回 9月19日（木）『揺れ動く朝鮮半島情勢』
平井久志氏 ジャーナリスト 元共同通信社ソウル支局長

| |
|--|
| 特別講話会・第6回 6月3日 12:00-15:00 如水会館3F, 富士の間 『戦後の宰相論—戦後保守政治を顧みる』 浅野純次氏 元東洋経済新報社社長 会費（昼食代3千円） 申し込み受付中。定員約40名。 新三木会代表幹事 則松久夫 070-6994-0137 090-3813-0137 |
|--|

事務局

<投稿>を歓迎します。

<プリント版・郵送>

メール版を編集してプリント版を月に1回発行郵送しています。

お申込みくださればお送りします。一応、実費として月@350円(4200円/年)をいただいておりますが、強制するものではありません。

<振込先>三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532
(口座名) テンチシニアネットワーク

天地シニアネットワーク・テーブル・493号

発行：2019年5月15日

天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)

〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：tentisenior06@gmail.com

電話・FAX・03-3819-7651